

広島国際大学教授就任資格審査のため文部省へ提出した書類

1997年12月20日作成

履 歴 書				
フリガナ 氏 名	おかべ ヨウジ 岡部 陽二	男・女 (男)	本籍地又は国籍	東京都
生年月日(年齢)	昭和 9 年 8 月 16 日(満63歳)		現住所	東京都三鷹市井の頭3丁目1番1号
学 歴				
年 月	事 項			
昭和28年 4月 昭和32年 3月	京都大学 法学部 法律学科 入学 京都大学 法学部 法律学科 卒業(法学)			
職 歴				
年 月	事 項			
昭和32年 4月 昭和47年 4月 昭和48年 4月 昭和49年10月 昭和51年 1月 昭和51年 8月 昭和55年11月 昭和57年 6月 昭和59年 1月 昭和59年 7月 昭和60年10月 昭和62年 4月 平成 元年 4月 平成 4年 9月 平成 5年 4月 平成 5年 6月	株式会社 住友銀行 入行 株式会社 住友銀行 外国業務部 次長 株式会社 住友銀行 国際金融部 次長 株式会社 住友銀行 国際業務部 副部長 株式会社 住友銀行 東京営業部 副部長 株式会社 住友銀行 調査役・住友ファイナンス・インターナショナル 取締役社長 株式会社 住友銀行 国際投融資部長 株式会社 住友銀行 取締役 国際投融資部長 株式会社 住友銀行 取締役 ロンドン支店長 ゴットホルド銀行 取締役兼務(平成5年3月まで) 株式会社 住友銀行 常務取締役 ロンドン支店長 株式会社 住友銀行 常務取締役 欧州総括役員 株式会社 住友銀行 専務取締役 欧州総括役員 株式会社 住友銀行 専務取締役(国際部門担当)(平成5年3月まで) 明光証券 株式会社 顧問 明光証券 株式会社 代表取締役会長 現在に至る			
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等				
年 月	事 項			
昭和62年 4月 平成 5年 6月 平成 5年 6月 平成 5年 6月 平成 8年 7月 平成 5年 6月 平成 5年 6月 平成 5年10月 平成 7年 7月 平成 8年 7月	英国 International Business in the Community (国際ビジネスインザコミュニティ)会員(平成4年9月まで) 日本証券業協会 会員代表 現在に至る 日本証券業協会 大阪地区協会地区評議員 現在に至る 日本証券業協会 政策委員会委員(平成8年6月まで) 日本証券業協会 店頭登録委員会 委員 現在に至る 大阪証券取引所 会員代表 現在に至る 大阪証券取引所 財務委員会 副委員長 現在に至る 東京日本橋西ロータリークラブ 会員 現在に至る 経済団体連合会 金融財政委員会 常任委員(平成8年6月まで) 経済団体連合会 金融制度委員会 常任委員 現在に至る			

(岡部 陽二)

彰 罰			
昭和46年 1月	住友銀行 創業75周年記念論文 特等 受賞 【「当行業務の国際化を中心として」】		
職 務 の 状 況			
勤 務 先	職 名	職 務 の 内 容	備 考
明光証券 株式会社	代表取締役会長	取締役会議長、経営全般総括	
上記のとおり相違ありません。 平成 9 年 12 月 20 日 氏名 岡部 陽二 印			

(岡部 陽二)



教 育 研 究 業 績 書

平成 8 年 12 月 20 日

氏名 岡部 陽二 印

著書,学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 やさしい外為講座 為替リスク回避とは? 2 米国証券市場調査団報告書	単著 共著	昭和41年11月 (改訂版) 昭和49年5月 平成8年12月	自由経済社 山一證券株	変動相場制への移行に伴い、必然的に発生する為替リスクについて、相場変動の要因を分析の上、リスク回避の実務的方策を解説したもの。(121頁) 山一證券傘下の中堅証券会社13社の経営者で組成された米国証券市場調査団の団長を委嘱され、平成8年11月19日から10日間、米国三都市にて米国の大手・中堅証券会社・取引所などを訪問、米国の証券業界、特にリテール業界の実状を広範に亘って調査した。その調査結果を団長・団員が分担執筆の上「日本版ビッグバン」への対応の指針として、全体のとりまとめを団長の責任において行った報告書である。(129頁) 担当部分:はしりがき及び総論の執筆並びに団長として全体のとりまとめを行った。 (岡部陽二、石井茂 他)
(学術論文) 1 邦銀現法の「主幹事」遂行能力に遜色なし —自己責任に基づく自由な競争と参入の実現を— 2 海外資金調達の新手段 —変動金利付CDのすべて 3 急成長を遂げる金利スワップ取引	単著 単著 単著	昭和54年9月 昭和55年8月 昭和58年8月	金融財政事情 第30巻 第35号 PP20～25 (財)金融財政事情研究会 東洋経済 「金融と銀行」 55 新年特大号 PP136～142 東洋経済新報社 金融財政事情 第34巻 第31号 PP37～41 (財)金融財政事情研究会	本来あらゆる規制から自由であるべきユーロ資本市場において、邦銀証券現法についてのみ課されている我が国大蔵当局の規制措置の不当性を検証し、ユーロ市場における、我が国金融業全体の発言力強力を提唱したもの。(6頁) ユーロ金融市場において急成長を遂げた変動金利付CDについて、その開発に至る経緯とその後の市場展開の軌跡を中心に解説を試みたもの。(7頁) 1980年代に新登場した金利スワップ取引について、そのメカニズムと発生の経緯などを分析、外債市場での活用を提唱すると共に、将来への展望を予測したスワップ取引に関する我が国初の論述。(5頁)

(その他)				
1 ニュージーランドの印象	単著	昭和57年12月	豪州・ニュージーランド 産業経済調査団報 告書 PP127～128 財団法人日本生活 性本部近代化協会	産業経済調査団の一員として訪問したニュージーランド経済の潜在力につき、分析・論考したもの。(2頁)
2 「年金資産の効率的運用を望む」 他10編 (時評)	単著	平成5年7月 ～ 平成8年8月	明光レポート Vol.6, No.58, ～ Vol.8, No.83, 明光証券経済研究 所	我が国証券業界が直面している課題について、対象業務別に論点を絞って改善の方向などを提言したもの。(18頁)
3 『旧中国の紡績労働研究』余聞	単著	平成6年2月	しょうけんくらぶ 第55号 P12 日本証券経済倶楽 部	亡父の遺著『旧中国の紡績労働研究』(九大出版会より平成5年10月に刊行、525頁を父の没後に編集、発行した経緯、裏話などを記したもの。(1頁)
4 ヨーロッパ切手市場の魅力	単著	平成7年2月	しょうけんくらぶ 第57号 PP10～11 日本証券経済倶楽 部	趣味の一つである切手収集につき市場原理がフルに働いている自由な欧州マーケットの仕組みなどを中心にエッセーとして纏めたもの。(2頁)
5 アジアと共生するための3つの提案	単著	平成7年12月	月刊 Keidanren 25 1995・増刊 (社) 経済団体連合会	経団連が経済人135人のオピニオンリーダーから募った「私の共生論」に参加、国境を越えたアジアとの共生のあり方につき論じたもの。(1頁)
6 サッチャー時代の英国に学ぶ 1～8	単著	平成8年4月 ～ 平成8年5月	週刊 税のしるべ (財)大蔵財務協会	サッチャー時代の政治・経済・文化諸面に顕著に具現された変革につき検討、サッチャー前首相の指導力とその功罪につき論じたもの。(8頁)
7 <ペンリレー わが道、わが人生> —回想と夢—	単著	平成8年8月	金融経済新聞	住友銀行在勤36年の過半を過ごした国際金融分野での活動を振り返り、併せて活動の主舞台であった欧州への郷愁を述べたもの。(1頁)
8 狂牛病騒動に思う	単著	平成8年9月	しょうけんくらぶ 第60号 PP.10～11 日本証券経済倶楽 部	英国経済を痛撃した狂牛病が原因に英エコノミスト誌の分析を基に分析。今後の教訓を引出した論説。(2頁)
9 英国に学ぶ個人投資家育成策	単著	平成8年10月	きらめき第6号 PP.8～9 日本個人投資家協 会	英国における国営企業の民営化、年金基金の株式運用及び個人持株計画について概説の上、我が国での個人投資家育成政策を提言。(2頁)
10 スイスに見る株主尊重の会社経営	単著	平成9年1月	きらめき第7号 PP.14～15 日本個人投資家協 会	ゴットルト銀行取締役の経験に基づいてスイスにおける株主総会・取締役会の実情を紹介、わが国の現状と対比を論述したもの。(2頁)

11 別子開坑の謎	単著	平成 9 年 4 月	CAPITAL MARKET RESEACH 第 19 号 PP.86～87 資本市場フォーラム	約三百年前の別子銅山発見の史実が書き換えられた経緯を紹介、研究論文執筆に当たつての教訓を示唆したエッセー。(2 頁)
上記以外に その他 8 編				

(岡部陽二)

(職務上の実績)

1 変動金利付 CD(Floating Rate Certificate of Deposit)の開発

従事期間:昭和51年～昭和55年

概要:昭和52年4月、住友ファイナンス・インターナショナル社にて、国際金融業界世界初の変動金利付 CD(それまではすべて固定金利)を開発、邦銀の海外資金調達新手段として注目を集め、同年4月25日ロンドン・タイムズ誌に「Sumitomo Pioneer Floating CD」と大きく報ぜられた。

(『東洋経済』昭和55年新年特大号記事、「日経ビジネス」昭和55年9月22日号記事、

「タリファジ」昭和57年6月に連載『住友銀行の国際戦略』)

[住友銀行調査役、住友ファイナンス・インターナショナル取締役社長]

2 本邦初の金利スワップ付外債開発

従事期間:昭和56年～58年

概要:昭和57年7月、我が国企業として初の金利スワップ付外債を発行、金利スワップ契約により金利変動リスクを回避した初のデリバティブ金融取引として注目を浴びた。

(『金融財政事情』昭和58年8月22日号記事、「日経新聞」昭和57年7月16日記事)

[住友銀行取締役国際投融資部長]

3 ゴットルト銀行の買収

従事期間:昭和57年～昭和59年

概要:昭和58年4月、スイス所在のゴットルト銀行買収を提案、一年以上の難交渉を経て昭和59年2月28日に買収契約調印に漕ぎ着けたが、この買収は極めてユニークな邦銀の国際証券戦略として内外の注目を集めた。買収実現後、平成5年まで同行の取締役を兼任した。

(『住友グループの国際戦略』、個人投資家協会機関誌「きらめき」平成8年12月号掲載「スイスに見る株主重視の経営」)

[住友銀行取締役国際投融資部長]

4 欧州地域総括役員としての活動

従事期間:昭和62年～平成4年

概要:欧州地域の経営総括役員として非日系企業取引、プロジェクト・ファイナンス、資金為替ディーリング、デリバティブ業務などを多角的に展開、現地人化を強力に推し進めた。その活動振りに対し『The Top Ten most influential Japanese in Europe』(Business Life 誌1989年7月号)、『The Universal Banker』(Banking World 誌1989年5月号)等の評価を頂戴した。

また、フィナンソピー活動においては、英皇太子主宰の「Business in the Community」に参加、企業の地域社会貢献活動を実践、大英博物館の「Japanese Gallery」新設にも側面協力した。

(『日経新聞』平成6年10月19日付「交遊抄」、証券経済倶楽部機関誌「しょうけんくらぶ」平成9年1月号掲載のエッセー「大英博物館の思い出」)

[住友銀行常務取締役・専務取締役]

5 山一証券株グループの「米国証券市場調査団」団長として調査報告を取りまとめ。

従事期間:平成8年11月

概要:山一証券株傘下の中小証券会社13社で構成する「十三会」の米国証券市場調査団の団長を委嘱され、平成8年11月19日から10日間に亘り、ニューヨーク、シカゴ、サンフランシスコ所在の証券会社・取引所など16ヶ所を往訪、その調査結果を十三会「米国証券市場調査報告書」として取りまとめた。

[明光証券代表取締役会長]

(岡部 陽二)

研究等実績報告書

医療経営学科

教授 岡部 陽二

[著書・論文] (1996年12月20日付け「教育研究業績書」に記載分を除く)

著書、学術論文等の名称	単著または共著の別	発行または発表の年月	出版社または論文掲載の誌紙名	概要
(訳書) 医療サービス市場の勝者 —米国の医療サービス変革に学ぶ—	監訳	1999 年4月	シュプリンガー・フェアラーク東京(株)	ハーバード大学大学院教授レジナ・ヘルツリンガー著“Market-Driven Health Care”の翻訳・解説 (460頁)
(学術論文)				
1、サッチャーリズム再考	単著	1998 年7月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第64号p10-11	サッチャーリズムの真髓が誤解されている現状を憂い、同首相が信念をもって断行した政策を史実に基づいて実証。(2頁)
2、新通貨「ユーロ」の教訓	単著	1998 年 11 月	(財)外国為替貿易研究会「国際金融」1015 号p36-43	欧州単一通貨「ユーロ」成立に至る経緯を具に分析のうえ、アジア圏通貨バスケット創設の必要性を力説。(9頁)
3、誤ったヘッジファンド批判を憂う	単著	1999 年 2 月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第65号p10-11	ヘッジファンド破綻の原因を分析、現下の問題は同様の金融取引に染手している大手銀行にあり、これへの対応策を提言。(2頁)
4、ユーロ誕生後に円が進むべき道	単著	1999 年 3 月	時事通信社「金融財政」第9137号p12-15	ユーロ成立に至る経緯を踏まえて、わが国も為替相場安定向けの外交努力とそれを支える理論構築の必要性を提言。(4頁)
5、新通貨ユーロに学ぶ —円ドル相場安定に向けて—	単著	1999年5月	5月8日付け中国新聞7頁「中国論壇」	EUがユーロ通貨の統一で実現した為替変動リスク排除の努力にわが国も見習うべきと提唱
6、ベンチャー・インフラの抜本的整備を急げ	単著	1999年9月	外国為替貿易研究会「国際金融」第1031号p4-18	米国のベンチャー・キャピタルに倣ってわが国もベンチャー企業育成のためのインフラ整備を急ぐべきと提言
7、ベンチャー企業のための IPO 改革を、専業引受証券育成、インフラ整備米国並みに	単著	2000年8月	時事新報社「金融財政」第9266号p2-7	米国ナスダック市場に見習い、わが国のIPO市場を支えるインフラの抜本的改革の必要性を提唱
8、医療システムの国際比較	単著	2000年8月	大阪工大摂南大学学園新報サイエンス・アンド・アーツ	わが国の医療システム改革に当り、先入観を排した国際比較の重要性を強調
9、IPO市場インフラの構築を急げ	単著	2000年9月	外国為替貿易研究会「国際金融」第1051号p22-31	米国ナスダック市場に見習い、わが国のIPO市場を支えるインフラの抜本的改革の必要性を米国の事例や図表を豊富に盛り込んで詳述

10、個人投資家を支える税制 —英国に学ぶ	単著 単著	2000年9月 1995 年7月	日本経済新聞インターネット・ページに4ヶ月間掲出	株式譲渡益課税のあり方につき、諸外国の税制ことに英国から学ぶべきところを具体的に詳述
(その他雑)				
1 三大経済学者の生家と墓碑	単著	1995 年11 月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第58号 p8-9	アダム・スミス、カール・マルクス、ジョン・メイナード・ケインズの生家と墓碑を訪れ、三大経済学者の生き様について考究。(2頁)
2 世界の三大瀑布	単著	1995 年11 月	東京証券経営者連盟「証券随想」第49号 p43-49	イグアス、ビクトリア、ナイアガラの三大瀑布への旅行体験を記し、瀑布の神秘性、瀑布に挑む冒険心などの感慨に及ぶ。(7頁)
3 「地球の滴」神秘さ永遠に —鉱物収集の輪、日本でも 広がる—	単著	1995 年12 月	日本経済新聞最終頁、文化欄	趣味としての鉱物収集の自分史を綴り、鉱物博物館やフェア開催の増加を通じての趣味の広がりについて論述。(1頁)
4 還暦からのパソコンへの挑戦	単著	1996 年5 月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第59号p8-9	パソコン修得の苦心談とパソコン通信での囲碁対極の醍醐味を強調、個人ユーザーへのサービス充実を訴える。(2頁)
5 オペラハウス鑑賞の旅	単著	1996 年8 月	金融経済新聞文化欄	ロンドン在勤中に訪れたオペラハウスの建築美とその背景、ヨーロッパ人のオペラに賭ける執念に論及。(1頁)
6 中東の三Pを訪れて	単著	1996 年11月	時事通信社「世界週報」11/19号ゲストエッセーp56-57	中東の古代遺跡、ペルセポリス、ペトラ、パルミラへの旅行記をもとに古代文明消長の根因に想いを馳せる。(2頁)
7 鉱物収集・やる気まんまん	単著	1996 年11月	鉱物同志会会誌「水晶」第10号 p40-42	鉱物収集と石の文化について対談した文化放送「吉田照美とのやる気まんまん—午後2時の興味津々」のテープを収録。(2頁)
8 ワイン雑感	単著	1997 年2 月	資本市場研究会「月刊資本市場」3月号 p68—69	欧州での体験を基にワインの好みと嗜み方についての自説を開陳、自己責任でのワインの選択を奨励(2頁)
9 大英博物館の思い出	単著	1997 年3月	日本証券経済倶楽部しょうけんくらぶ第61号p22-23	在英中に足繁く通った大英博物館の魅力と「ジャパン・ギャラリー」新設に貢献した思い出を語る。(2頁)
10 アルバニアの悲劇	単著	1997 年4月	日本証券経済倶楽部しょうけんくらぶ第62号p12-13	かつて訪れたアルバニアでの体験をもとに同国の経済混乱とバルカンでの民族紛争の根因を考える(2頁)
11 私のオペラハウス遍歴	単著	1997 年8 月	めいかん企画「私の旅」平成10年1月号 p54-55	世界の三大名オペラ座、ゼンパー・オペラ、グラインド・ボーン、テアトロ・マナウスの印象をもとに建築美の素晴らしさを語る。(2頁)
12 活躍舞台の広がる人工水晶	単著	1997 年12 月	鉱物同志会会誌「水晶」第11号 p40-41	水晶振動子をはじめとする水晶デバイスの素材である人工水晶について、結晶構造、逆圧電効果、製法、用途などについて分析。(2頁)

13 京の味、にしんそば	単著	1999年1月	季刊「新そば」 No.101 p2-3	京都名物のにしんそばについて、その歴史、調理法を探り、オランダ人が好む生にしんと対比して、にしんとそばの相性を記す。(2頁)
14 セントアンドルースへの誘い	単著	1999年4月	日本証券経済倶楽部 しょうけんくらぶ 第63号 p32-33	ゴルフ発祥の地、セントアンドルースでのプレー経験をもとにゴルフの歴史に思いを馳せ、その原点を探る。(2頁)
15 アルタミラ洞窟の天井画	単著	1999年7月	めいかん企画「私の旅」 平成10年12月号	人類最古の芸術作品とされているアルタミラ洞窟の天井に描かれたビソンの不思議に迫り、古代人の生命力を考える。(2頁)
16 <書評>「国家の退場」	単著	1999年10月	時事通信社「金融財政」 第9125号 p19	岩波書店刊、スーザン・ストレンジ著「国家の退場—グローバル経済の新しい主役達—」の論評(1頁)
17 冬もみぢの句碑	単著	2000年2月	中国新聞夕刊第1面 「でるた」	亡き母の句碑建立に至る事情をエッセーとしたものの
18 円光寺とのご縁	単著	2000年7月	日本証券経済倶楽部 しょうけんくらぶ 第65号p8-9	同上、句碑建立をお願いした京都洛の円光寺の歴史などを題材としたエッセー(2頁)
19 <書評>「マッド・マネー」	単著	1999年10月	時事通信社「金融財政」 第9189号 p17	岩波書店刊スーザン・ストレンジ著「マッド・マネー—世紀末のカジノ資本主義—」の論評(1頁)
20 死海文書の不思議	単著	2000年2月	日本証券経済倶楽部 しょうけんくらぶ 第67号p10-11	今世紀最大の考古学上の発見といわれる死海文書を中心としたイスラエル旅行記(2頁)
21 「医療サービス市場の勝者」	単著	2000年7月	住友銀行 OB 誌「銀泉」 第120号 p60-61	私の監訳書「医療サービス市場の勝者」翻訳にまつわるエピソードなど紹介(2頁)
22 ヘルツリンガー教授と「医療サービス市場の勝者」	単著	2000年7月	ジュンク堂「書標」 2000年7月号 p4-5	同上、著者ヘルツリンガー教授の印象などを紹介したもの(2頁)
23 「医療サービス市場の勝者」	単著	2000年7月	日本証券経済倶楽部 しょうけんくらぶ 第68号 p8-9	同上、米国の医療システムから学ぶべきところなどを書込んだもの(2頁)

平成 12 年 11 月 7 日

研究等実績報告書

医療経営学科

教授 岡部 陽二

[著書・論文] (1996年12月20日付け「教育研究業績書」に記載分を除く)

著書,学術論文等の名称	単著または共著の別	発行または発表の年月	出版社または論文掲載の誌紙名	概要
(訳書) 医療サービス市場の勝者 —米国の医療サービス変革に学ぶ—	監訳	1999 年4月	シュプリング・フェアラーク東京(株)	ハーバード大学大学院教授レジナ・ヘルツリンガー著“Market-Driven Health Care”の翻訳・解説 (460頁)
(学術論文)				
1、サッチャーリズム再考	単著	1998 年7月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第64号p10-11	サッチャーリズムの真髓が誤解されている現状を憂い、同首相が信念をもって断行した政策を史実に基づいて実証。(2頁)
2、新通貨「ユーロ」の教訓	単著	1998 年11 月	(財)外国為替貿易研究会「国際金融」1015 号p36-43	欧州単一通貨「ユーロ」成立に至る経緯を具に分析のうえ、アジア圏通貨バスケット創設の必要性を力説。(9 頁)
3、誤ったヘッジファンド批判を憂う	単著	1999 年2 月	日本証券経済倶楽部「しょうけんくらぶ」第65 号p10-11	ヘッジファンド破綻の原因を分析、現下の問題は同様の金融取引に染手している大手銀行にあり、これへの対応策を提言。(2頁)
4、ユーロ誕生後に円の進むべき道	単著	1999 年3 月	時事通信社「金融財政」第9137 号p12-15	ユーロ成立に至る経緯を踏まえて、わが国も為替相場安定に向けての外交努力とそれを支える理論構築の必要性を提言。(4頁)
5、新通貨ユーロに学ぶ —円ドル相場安定に向けて—	単著	1999年5月	5月8日付け中国新聞7頁「中国論壇」	EUがユーロ通貨の統一で実現した為替変動リスク排除の努力にわが国も見習うべきと提唱
6、ベンチャー・インフラの抜本的整備を急げ	単著	1999年9月	外国為替貿易研究会「国際金融」第1031号p4-18	米国のベンチャー・キャピタルに倣ってわが国もベンチャー企業育成のためのインフラ整備を急ぐべきと提言
7、ベンチャー企業のための IPO改革を、専業引受証券育成、インフラ整備米国並みに	単著	2000年8月	時事新報社「金融財政」第9266号p2-7	米国ナスダック市場に見習い、わが国のIPO市場を支えるインフラの抜本的改革の必要性を提唱
8、医療システムの国際比較	単著	2000年8月	大阪工大播磨大学学園新報サイエンス・アンド・アーツ	わが国の医療システム改革に当り、先入観を排した国際比較の重要性を強調
9、IPO市場インフラの構築を急げ	単著	2000年9月	外国為替貿易研究会「国際金融」第1051号p22-31	米国ナスダック市場に見習い、わが国のIPO市場を支えるインフラの抜本的改革の必要性を米国の事例や図表を豊富に盛り込んで詳述

10、個人投資家を支える税制 —英国に学ぶ	単著 単著	2000年9月 1995 年7月	日本経済新聞インターネット・ページ に4ヶ月間掲出	株式譲渡益課税のあり方につき、諸外国の税制 ことに英国から学ぶべきところを具体的に詳述
(その他雑)				
1 三大経済学者の生家と墓碑	単著	1995 年11 月	日本証券経済倶楽 部「しょうけんくら ぶ」第58号 p8-9	アダム・スミス、カール・マルクス、ジョン・メイナ ード・ケインズの生家と墓碑を訪れ、三大経済学 者の生き様について考究。(2頁)
2 世界の三大瀑布	単著	1995 年11 月	東京証券経営者連 盟「証券随想」第4 9号 p43-49	イグアス、ビクトリア、ナイアガラの三大瀑布への 旅行体験を記し、瀑布の神秘性、瀑布に挑む冒 険心などの感慨に及ぶ。(7頁)
3 「地球の滴」神秘さ永遠に —鉱物収集の輪、日本でも 広がる—	単著	1995 年12 月	日本経済新聞最終 頁、文化欄	趣味としての鉱物収集の自分史を綴り、鉱物博物 館やフェア開催の増加を通じての趣味の広がり について論述。(1頁)
4 還暦からのパソコンへの挑戦	単著	1996 年5 月	日本証券経済倶楽 部「しょうけんくら ぶ」第59号p8-9	パソコン修得の苦心談とパソコン通信での囲碁 対極の醍醐味を強調、個人ユーザーへのサー ビス充実を訴える。(2頁)
5 オペラハウス鑑賞の旅	単著	1996 年8 月	金融経済新聞 文化欄	ロンドン在勤中に訪れたオペラハウスの建築美 とその背景、ヨーロッパ人のオペラに賭ける執念 に論及。(1頁)
6 中東の三Pを訪れて	単著	1996 年11月	時事通信社「世界 週報」11/19号ゲスト エッセーp56-57	中東の古代遺跡、ペルセポリス、ペトラ、パルミラ への旅行記をもとに古代文明消長の根因に想い を馳せる。(2頁)
7 鉱物収集・やる気まんまん	単著	1996 年11月	鉱物同志会会誌 「水晶」第10号 p40-42	鉱物収集と石の文化について対談した文化放送 「吉田照美とのやる気まんまん—午後2時の興味 津々」のテープを収録。(2頁)
8 ワイン雑感	単著	1997 年2 月	資本市場研究会 「月刊資本市場」3 月号 p68—69	欧州での体験を基にワインの好みと嗜み方につ いての自説を開陳、自己責任でのワインの選択 を奨励(2頁)
9 大英博物館の思い出	単著	1997 年3月	日本証券経済倶楽 部しょうけんくらぶ 第61号p22-23	在英中に足繁く通った大英博物館の魅力と「ジャ パン・ギャラリー」新設に貢献した思い出を語る。 (2頁)
10 アルバニアの悲劇	単著	1997 年4月	日本証券経済倶楽 部しょうけんくらぶ 第62号p12-13	かつて訪れたアルバニアでの体験をもとに同国 の経済混乱とバルカンでの民族紛争の根因を考 える(2頁)
11 私のオペラハウス遍歴	単著	1997 年8 月	めいかん企画「私 の旅」平成10年1 月号 p54-55	世界の三大名オペラ座、ゼンパー・オパー、グラ インド・ボーン、テアトロ・マナウスの印象をもとに 建築美の素晴らしさを語る。(2頁)
12 活躍舞台の広がる人工水晶	単著	1997 年12 月	鉱物同志会会誌 「水晶」第11号 p40-41	水晶振動子をはじめとする水晶デバイスの素材 である人工水晶について、結晶構造、逆圧電効 果、製法、用途などについて分析。(2頁)